

コラム

「通貨戦争とエネルギー、そして自転車」

戦略・産業ユニット

石油グループ 前田 智 広

今、MENA（中東・アフリカ）から目が離せない。リビアのみならず MENA 各国において、日々刻々と情勢の変化が大きく報じられ、さすがの専門家も今後の見通しに頭を抱えているのではないだろうか。リビアはどのような結末を迎えるのだろうか。さて、その騒乱の遠因の一つに食糧価格の高騰が挙げられ、その背景の一つに投機資金の流入が指摘されている。

「Currency Wars（通貨戦争）」という言葉は 2010 年の流行語の一つであったらしいが、その「戦争」状態をさらに複雑なものにしたのが、2010 年 11 月 3 日に米連邦準備理事会（FRB）が実施した「量的緩和（QE2）」の導入である。この QE2 において FRB は、8 ヶ月間で 6,000 億ドルの中期米国債を購入する計画であり、以前に FRB が購入した債券が満期になって戻ってくる資金 3,000 億ドル分も米国債の購入に回すことで、FRB は今年の夏までに合計 1 兆ドル近くの米国債を買い支えることになる。つまり、1 兆ドルのマネーが市場に出回ることになる訳である。その市場に放出された大量のマネーは、副作用としてのインフレ懸念を生み、インフレをヘッジするための実物資産としての原油や金の市場に流入するのは自然の流れでもある。

このような経済・金融情勢の中で勃発した今回の中東・北アフリカの政情混乱は、供給途絶の懸念を高めることによって油価のさらなる高騰を引き起こしている。その背景は、通貨の過剰流動性とは別の需給バランスの懸念からのものであるが、この緊迫した状況が長引けば、商品市況の高騰による経済の低迷は避けられず、米連邦準備理事会（FRB）は、6 月末の量的緩和第 2 弾が終了後、第 3 弾（QE3）に乗り出す可能性が出てくるのではないかと危惧されている。そのことは、再び金融市場における過剰流動性を増し、エネルギー価格の一層の上昇に繋がる懸念が高まっていく。今まで言われてきた、価格動向を左右する金融・石油需給・経済など全てのファクターが、一挙に価格上昇圧力となってくるとも予想される。

米エネルギー省は、その短期エネルギー見通しで、原油価格が 2011 年平均で 105 ドル/

バーレルになると予測している (3 月 9 日の WTI 終値は 104.38 ドル/バーレル)。前回 2 月の見通しに比べ 14 ドルの上方修正となる。また、ニューヨーク・ポスト誌によると、ガソリンが 1 ガロンあたり 25 セント上昇すると、米経済から年間 18 億ドル (約 1,470 億円) が流出するという試算もなされている。特に、ニューヨークなど米東部 3 州に絞ると、運転者一人で年 1,810 ドル (約 14 万 8,000 円) の負担増になるという。その負担増のお金は、産油国に流れ、ある意味では富の流出となる。米国政府の財政赤字は、日本同様大きな問題となっているが、株式市況が示す通り、昨年末から持ち直して来つつある景気が、腰倒れになることも有りうるのではないだろうか。

チュニジアの一青年の焼身自殺から、この様な世界規模での深刻な事態が引き起こされることを、いったい誰が予測できただろうか。情報伝達の速度の持つ意味・重要性を改めて感じる。青年は、警察により生計への道を断たれ、絶望して抗議の為に自殺の道を選んだものだが、その背景には困窮する国民の生活があり、高騰する食糧価格もその 1 つである。食糧価格高騰の一要因が、通貨による過剰流動性によるものとするれば、遠因の一つは、穿った見方をすれば「QE2」だったのかも知れない。もし「QE3」が実施されるとしたら、こんどはどの様な影響を世界に対して、また一個人に対して及ぼすのだろうか。仮に実施されたとしても、「負の連鎖」にならないことを祈るばかりである。

話題は突然、私的なところに飛んでしまうが、最近楽しみにしていることがある。友人の影響もあって家庭菜園をやってみたくなった。しかし、場所の確保が大変で試行錯誤の後、市民農園への応募という手段を知り、締め切り日ぎりぎりに応募した結果、何と 10 倍の倍率の自宅から 2 駅離れた市民農園區画を手にすることが出来た。農作業は、土との触れ合いで、黙々と土と向き合う、結構孤独な作業であり、それだけに無心になれ、静かな気持ちになれるに違いない。まずは定番の、トマト・キュウリ・ナス辺りから始めようか。小さい頃、お袋と良く畑に行ったものである。今思えば、立派な野菜を作っていた記憶がある。友人の話だと、たかが野菜づくりでもそう甘いものではなく、それなりの覚悟が必要らしい。

そして、市民農園までの交通手段として自転車 (ママチャリではなく、クロスバイク) を購入した。これも友人の影響が強いが、少年時代のあの風を切って進んで行った快感をもう一度味わいたくなった。季節の移ろいを感じながら自然に触れるのは、実に気持ちのいいものだろう。後付ではあるが、自転車には様々な効用がある。ダイエットであり、健康であり、節約であり、季節感の感知でもある。それは小さな満足であると共に、最後には地球環境に結び付くかも知れない。自転車は車と違い、排気ガスを撒き散らす恐れもない。自転車はクルマの 130 分の 1 しか CO2 を排出せずに、人の移動が出来るらしい。化石燃料を一切使わない究極のエコにも繋がる。因みに、日本は自転車保有台数では世界一だ

が、事故も世界一らしい。自転車は都市の交通機関として市民権を得ているのは、オランダ・ドイツで、自転車専用レーンもしっかり完備されている。欧州が環境問題に熱心なのも頷ける気がする。

MENA の動向やエネルギーの将来、国内政治の動き、世界の多極化・無極化の流れなどなど、最近考えることが多すぎるが、週末ぐらいはシンプルな乗り物で活動し、自然の中でシンプルな生活をする事で、人生をちょっぴり楽しくしたいと思っている。汗を流しながら土いじりをし、ひょっと見上げた雲ひとつ無い青空が、何か大事なことを教えてくれるかも知れない。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp